別　紙

第４次昭和区地域福祉活動計画パブリックコメント（意見）とそれに対する考え方

番号	項目	意見の内容	意見に対する考え方
1	身近な地域でのつながりづくりの取り組み	「地域住民とサロン等地域活動との接点をつくる」についてはサロンの増設を目指すものなのか。	サロン実施箇所数の増加ではなく、地域住民が自分に合ったサロン等の地域活動（居場所）に参加できるよう、より多くの方がサロン等に参加できる方法を検討するもの。 同じ考え方から、男性の地域活動への参加についても検討していく予定である。
2	身近な地域でのつながりづくりの取り組み	「子どもの居場所について地域の各種団体に啓発する」について、何をどのように啓発をするのか。トワイライトスクール（ルーム）や学童保育などにも協力を依頼してはどうか。	子どもの居場所に関する理解を広げることで学齢期の子どもが安心して過ごせる場をつくることを目的としている。 子ども食堂をはじめとする子どもの居場所に関する事業の見学などを各種団体に呼びかけるもの。トワイライトスクール（ルーム）や学童保育の参加協力についても検討していく。
3	身近な地域でのつながりづくりの取り組み	「学齢期の子どもに関わる団体・機関のネットワークづくり」について、ネットワークを作るメリットやその運用ができるのか。	家に居場所がなく夏休みなどの長期休み期間中に行く場所のない子どもがいるという現状を受け、学齢期の子どもに関わる団体・機関が継続的に情報交換する機会を設け子どもの支援や学校、地域等への情報発信の方法について検討していく。
4	支えあいの活動づくり	「身近なところで相談できる地域づくり」について、従来の相談窓口をどう改善運用するのかの検討をすべき。	地域支えあい事業の相談窓口への相談件数の増加や相談への対応方法については、「地域で活動する支援者を支える仕組みづくり」において、実際

			に地域支えあい事業を実施している学区の方々を含めて検討していく予定である。
5	支えあいの活動づくりの取り組み	相続などで悩んでいる区民がいるため、コミュニティセンター等で法律に関する相談ができないか。	区役所やいきいき支援センターが法律相談等を実施しており、学区の相談窓口に情報があれば紹介することが可能であることから、「地域で活動する人を支える仕組みづくり」の一環として検討・実施していきたい。
6	支えあいの活動づくり	「小地域での見守りの活動の促進」について、見守りの対象者が不明確である。各種団体の活動も組み合わせて全体的な視野に立った見守り活動を考えていただきたい。	日常的な見守りを通して支援が必要な人を把握し、緊急事態を回避できるような関係づくりを目標にしている。 現状では見守りの対象者等が分かりにくいため、表現を分かりやすく改善したい。
7	支えあいの活動づくり	「地域で活動する人を支える仕組みづくり」については活動をする人の発掘の方が大きな問題ではないか。	地域支えあい事業の相談窓口で対応できない依頼に対しては相談をつなぐ先の確保が必要であり、紹介先となる業者や相談支援機関のリスト作成などを想定している。 活動の担い手の発掘については、地域福祉推進の基盤づくりにおいて学区の活動者を含めて検討していきたい。
8	まなびあいの場づくり	「地域住民と一緒に取り組む学校での福祉教育の実施」について、第 3 次計画での実施結果はどうだったか。	第 4 次計画では地域における福祉の学びについて、その目的を「地域住民の誰もが参加できる活動や行事を企画・実施する中にある」という考えに基づいてとりくみを検討してきた。第 3 次計画における「学校で取り組む福祉教育の支援」は、福祉の授業やその

			他の活動において福祉に取り組む学校が増えてきており、今後も継続が必要な項目として考える。
9	まなびあいの場づくり	「小中高生の地域活動への参加促進」について、どのような取り組みを想定しているのか。	中高生が地域活動（サロンや地域支えあい活動）に参加することで日常的な関係を構築し、地域住民との顔が見える関係づくりを目指す。協力が得られる学校によって授業やクラブ活動など臨機応変に対応したい。
10	分野を超えた支援のネットワークづくり	第2次計画でセーフティネット委員会により作成された「こころんセーフティネット支援帳2010」のようにツールの作成だけが目的ではないようにしてほしい。	専門職同士や専門職と地域住民等の連携・協働について、実施にあたっては具体的な支援が展開できるよう留意したい。
11	地域福祉推進の基盤づくり	基本構想、重点項目、とりくみと体系が整い方向性が示されていて数年後が楽しみであるが、現在の学区社会福祉協議会の活動状況を踏まえると非常にハードルが高く相当に努力しないと目標は程遠いと感じる。 学区の人々と区社会福祉協議会職員が取り組みに向けて定期的な情報交換と打合せを行い諸策に対応していくことが求められ、道筋ができるまで今以上のサポート体制が必要に感じる。	各学区における取り組みの実施にあたっては、策定過程で作成した「行動シート」などを活用して、学区担当をはじめとした職員が学区の方々と目標を共有しながら事業について話し合う機会を設ける、実施方法をともに考えるなど支援を行っていきたい。 また、学区社会福祉協議会同士の横のつながりづくりなどを進め、学区間において情報交換しながら活動が進められるような体制としたい。
12	地域福祉推進の基盤づくり	自分たちの学区において、どの内容に取り組んでいけばよいのか明確ではないように感じた。どのような活動に取り	計画の内容については、各学区の実情に合わせて取り組むことを大切にしたい。「行動シート」において、今後取り組

		組んでいくと良いか具体的に提示してほしい。	みたいとした内容を踏まえつつ、具体的に取り組む内容ついては相談させていただきたい。
13	その他	手話教室の開催のみが第 2 次計画・第 3 次計画で取り上げられてきたが、手話だけではなく点訳や音訳、視覚障害者ガイドボランティアの養成なども必要ではないか。	ご指摘の通り、様々な障害の理解や支援者の養成という観点から、本計画においては地域福祉活動全般における担い手養成講座（点訳、音訳、ガイドボランティア、生活支援ボランティア等）を検討する。